

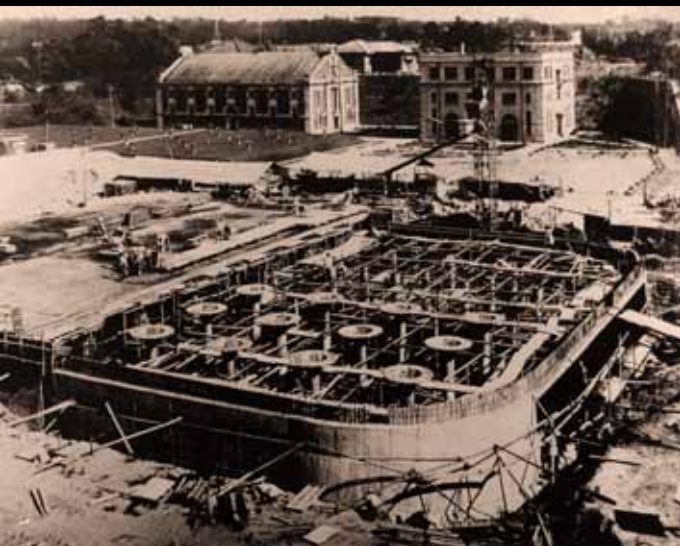
なごやしきゅうだいいち じよ ひがしやまきゅうすいとう
名古屋市旧第一ポンプ所および東山給水塔

所在地：愛知県名古屋市千種区 竣工年：大正3年（旧第一ポンプ所）・昭和5年
管理者：名古屋市上下水道局

認定理由：旧第一ポンプ所と東山給水塔は歴史的な建造物にとどまらず名古屋市水道のシンボルとしても親しまれており、名古屋の水道の歴史を物語る貴重な土木遺産である。

中部地方の
選奨土木遺産

平成23年度登録



鍋屋上野濾過池の建設風景 奥に第一ポンプ場が出てくる。



東山給水塔の貯水タンク 半径4.2mの鋼製オワン



竣工時には「傘」はなかったが、昭和50年代の補修時に上屋が改装され、この姿になった。

明治24年の濃尾大震災からの復旧時より、名古屋市は精力的に上下水道整備の計画を始めるが、巨額に及ぶ工費を準備できずになかなか起工できなかった。しかし、都市人口が増加し緊急性が増すと、明治35年に愛知県技師の上田敏郎により再び調査され、犬山から木曾川の水を引いて東山村田代山頂へ水を圧送した上で市内全域（まずは給水人口46万人）に配水する案が作成された。結局名古屋市はこの案を基本的に踏襲して上水道を作り上げることになる。ここで圧送するための装置が鍋屋上野に建設される第一ポンプ所である。日露戦争を挟んで明治41年に名古屋市水道敷設事務所が組織されて、翌年起工した。その後市域が拡大するに伴い随時拡張されてきたが、給水人口100万人を目標とした一大拡張事業が大正15年に始まる。この際に市東部の高台の住宅地化へ対応するべくより配送力を高めるために配水塔が設けられた。これが東山給水塔である。ポンプ所の外装はネオ・ルネサンス様式を基調とした豪華な装飾がデザインされ、給水塔の外装も表現主義的な統一感のあるデザインに仕上げられており、当時の都市基盤に対する気概が感じられる。